

CASBEE[®] 京都-新築

評価ソフト(標準システム)

バージョン CASBEE 京都-新築2018 (v.1.0)
 ■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版

1) 概要入力

① 建物概要

■ 建物名称	京都市立芸術大学(C地区)	
■ 建設地・地域区分	京都市下京区下之町56番地ほか	6地域
■ 地域・地区	商業地域, 防火地域	
■ 竣工年(予定/竣工)	2023年3月	予定
■ 敷地面積	15831.65	m ²
■ 建築面積	10227.42	m ²
■ 延床面積	46,496.19	m ²
■ 建物用途名	大学, 事務所, 劇場, 展示場 事務所, 学校, 集会所,	
■ 階数	地下1F, 地上7F	
■ 構造	SRC造	
■ 平均居住人員	0	人(想定値)
■ 年間使用時間	4,000	時間/年(想定値)

② 評価の実施

■ 評価の実施	2020年3月23日	実施設計段階
■ 作成者	京芸銅駝設計JV	
■ 確認日	2021年2月18日	
■ 確認者	公共建築建設課	
■ LCGO2の計算	標準計算 → LCGO2算定条件シート(標準計算)を入力	

2) 個別用途入力

① 用途別延床面積

事務所	1,905.17	m ²	事務所	1905.17	m ²
			官公庁	0.00	m ²
学校	39,864.91	m ²	幼稚園・保育園	0.00	m ²
			小・中学校	0.00	m ²
			小・中学校(北海道以外)	0.00	m ²
			高校	0.00	m ²
			大学・専門学校	39864.91	m ²
物販店	0.00	m ²	デパート・スーパー	0.00	m ²
			その他物販	0.00	m ²
飲食店	0.00	m ²			
集会所	4,726.11	m ²	劇場・ホール	2493.29	m ²
			展示施設	2232.82	m ²
			スポーツ施設	0.00	m ²
工場	0.00	m ²	うち省エネ計画対象面積	0.00	m ²
病院	0.00	m ²			
ホテル	0.00	m ²			
非住宅 小計	46,496.19	m ²			
集合住宅	0.00	m ²	専用部	0.00	m ²
			共用部	0.00	m ²

② 住居・宿泊部分の比率

■ 病院の延床面積のうち, 病室部分の床面積の比率	0
■ ホテルの延床面積のうち, 宿泊部分の床面積の比率	0
■ 集合住宅の延床面積のうち, 住戸部分の床面積の比率	0.00

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都市立芸術大学(C地区)	階数	地下1F,地上7F
建設地	京都市下京区下之町56番地ほか	構造	SRC造
用途地域	商業地域, 防火地域	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所, 学校, 集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2020年3月23日
敷地面積	15,831.65 m ²	作成者	京芸銅駝設計JV
建築面積	10,227.42 m ²	確認日	2021年2月18日
延床面積	46,496.19 m ²	確認者	公共建築建設課



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 4.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合 3つの敷地にまたがる大学・高校の移転計画であり、大学と地域、芸術と社会の新しい関係性を生み出すフレーム、「まちのように育まれる水平につながっていくキャンパス」を提案します。		その他
Q1 室内環境 芸術系の大学・高校における多様な授業それぞれの特性に応じ、配慮すべき点を適宜判断し室内環境を最適化しています。例えば、音楽学部は音環境を充実させるため、各室の遮音性能を向上させています。	Q2 サービス性能 建物は免震構造で高い耐震性能を有しています。また、マトリクスフロアとフレキシブルフロアからなる豊かな空間は日常のメンテナンスや将来的な変更に対応し得る許容量を有しています。	Q3 室外環境(敷地内) 建物は地上部に大きな通りを有する分棟上の形態からなります。「通り」・「庭」など京都において歴史的に培われてきた空間言語を用いることで、敷地内の緑化、歩行者空間の充実が図られています。
LR1 エネルギー 省エネルギー化を実現するため、井水や太陽光などの再生エネルギーを活用します。また、BEMを活用し、地区ごとにエネルギー運用の総合的なシステムを構築しています。	LR2 資源・マテリアル 可能な限りリサイクル材料を採用します。	LR3 敷地外環境 建物の形態がつくる通りの存在は、南北方向の卓越風を妨げないことがシミュレーションにより確認されています。また、敷地が駅から近いことなどを理由に公共の交通機関を利用するよう、ホームページやパンフレットなどの告知により促進させる計画としています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1 建物概要	
建物名称	京都市立芸術大学(C地区)
延床面積	46,496.19 m ²
用途	大学,事務所,劇場,展示場 事務所,学校,集会所,
BEE	3.3 S ★★★★★
使用CASBEE評価マニユ CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 使用CASBEE評価ソフト CASBEE京都-新築2018(v.1.0)	

2 重点項目への取組度	
キーワード	取組度
1 大切に使う	
2 とともに住まう	
3 自然からつくる	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア							
1 大切に使う 合計点 32.8 /41							
■長寿命化 合計点 13.8 /20							
◇メンテナンスの容易性 Q2/ 3.3.1 空調配管の更新性 スコア 3 Q2/ 3.3.2 給排水管の更新性 スコア 3 Q2/ 3.3.3 電気配線の更新性 スコア 5 Q2/ 3.3.4 通信配線の更新性 スコア 5 Q2/ 3.3.5 設備機器の更新性 スコア 3 (注 上記5項目のスコアの平均が合計点に加算される)	◇物理的長寿命 Q2/ 2.2.1 躯体材料の耐用年数 スコア 3 <自由記述>						
◇社会的長寿命							
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画 スコア 4							
Q2/ 3.1.2 空間の形状・自由さ スコア 3							
<自由記述>							
■省資源 合計点 18 /20							
LR2/ 2.1 材料使用量の削減 スコア 3							
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 スコア 5							
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 スコア 5							
LR2/ 2.6 部材の再利用可能性向上への取組 スコア 5							
<自由記述>							
◆独自加算項目 合計点 1 /1							
LR2/ 2.1 材料使用量の削減 主要構造部が木造躯体である場合で、「持続可能な森林から産出された木材」を使用しており、うち地域産木材を使用している。							
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 主要構造部に使用した「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。							
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。							
対象外 対象外 ○							
2 とともに住まう 合計点 36 /42							
■自然とともに住まう 合計点 14 /15							
◇自然を感じられる計画							
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観 スコア 5							
Q3/ 1 生物環境の保全と創出 スコア 5							
Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア 4							
<自由記述>							
■地域とともに住まう 合計点 13 /15							
◇地域環境やコミュニティへの配慮							
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 スコア 5							
LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 スコア 5							
LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策 スコア 3							
<自由記述>							
■歴史とともに住まう 合計点 9 /10							
◇歴史性への配慮							
Q2/ 1.2.3 内装計画 スコア 4							
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 スコア 5							
<自由記述>							
◆独自加算項目 合計点 0 /2							
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観 京都重点項目による加算により、レベル5を超える。							
LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策 格子状ルーバーや簾状スクリーンによりガラス面等の反射光を抑制している、または外壁に反射率の低い自然素材を採用している等の推奨内容の取組みを、1以上実施している。							
3 自然からつくる 合計点 42 /50							
■自然材料の利用 合計点 14 /15							
Q2/ 1.2.3 内装計画 スコア 4							
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 スコア 5							
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材 スコア 5							
<自由記述>							
■自然環境の利用 合計点 24 /30							
Q1/ 3.1.1 屋光率 スコア 3							
Q1/ 3.1.3 屋光利用設備 スコア 5							
Q1/ 3.2.1 屋光制御 スコア 3							
Q1/ 4.2.2 自然換気性能 スコア 3							
LR1/ 2 自然エネルギー利用 スコア 5							
LR2/ 1.2.1 雨水利用システム スコア 5							
<自由記述>							
◆独自加算項目 合計点 4 /5							
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材 「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。							
Q1/ 3.1.3 屋光利用設備 デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。							
Q1/ 3.2.1 屋光制御 デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。							
LR1/ 3 設備システムの高効率化 評価する取組みのうち、何れかの手法が採用されている。(但し、モニュメントの計画を除く)							
上記の内容に加え、利用量が15MJ/m ² ・年以上となる場合。							
○ ○ ○ ○							
4 低炭素景観の創出に関する評価							
<input checked="" type="checkbox"/> Q1/3.1.3 屋光利用設備 <input checked="" type="checkbox"/> Q3/1 生物環境の保全と創出 <input checked="" type="checkbox"/> Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上 <input checked="" type="checkbox"/> LR3/2.2 温熱環境悪化の改善 <input type="checkbox"/> LR3/3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	低炭素景観 取組数 5/6項目						
5 ライフサイクルCO₂とCO₂削減率							
ライフサイクルCO ₂ (ライフサイクルCO ₂ 参照値) CO ₂ 削減量	<table border="1"> <tr> <td>73.64</td> <td>kg-CO₂/年m²</td> </tr> <tr> <td>87.98</td> <td>kg-CO₂/年m²</td> </tr> <tr> <td>-14.34</td> <td>kg-CO₂/年m²</td> </tr> </table>	73.64	kg-CO ₂ /年m ²	87.98	kg-CO ₂ /年m ²	-14.34	kg-CO ₂ /年m ²
73.64	kg-CO ₂ /年m ²						
87.98	kg-CO ₂ /年m ²						
-14.34	kg-CO ₂ /年m ²						
ライフサイクルCO ₂ 削減率	+16.3%						
6 ウッドマイレージCO₂とCO₂削減率							
ウッドマイレージCO ₂ CO ₂ 削減効果	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>kg-CO₂</td> </tr> <tr> <td></td> <td>kg-CO₂</td> </tr> </table>		kg-CO ₂		kg-CO ₂		
	kg-CO ₂						
	kg-CO ₂						
ウッドマイレージCO ₂ 削減率	0%						

「ウッドマイレージ計算書」から転記 : 自由記述入力欄

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
京都市立芸術大学(C地区)

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年
■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル				舞台・客席NC-20(表より25dB(A))	5.0	0.40	-	-
1.2 遮音				T-2	5.0	0.40	-	-
1 開口部遮音性能				遮音性能目標値: 講堂~中合奏室間80dB以上	5.0	0.38	-	-
2 界壁遮音性能				遮音性能目標値: 中合奏室~小合奏室間80dB以上	5.0	0.27	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				遮音性能目標値: 中合奏室~小合奏室間80dB以上	5.0	0.17	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				教室に吸音材料を使用する	5.0	0.17	-	-
1.3 吸音					4.0	0.20	-	-
2 温熱環境								
2.1 室温制御					3.0	0.50	-	-
1 室温					3.0	0.57	-	-
2 外皮性能					3.0	0.38	-	-
3 ゾーン別制御性				ゾーン単位で冷暖房が可能	4.0	0.05	-	-
2.2 湿度制御					3.0	0.20	-	-
2.3 空調方式				居住域の上下温度差・ airflow速度を少なくする	5.0	0.30	-	-
3 光・視環境								
3.1 昼光利用					3.3	0.25	-	-
1 昼光率				●自然 A(全国版準用)	3.8	0.30	-	-
2 方位別開口					3.0	0.60	-	-
3 昼光利用設備				●自然 B(推奨内容)	5.0	0.40	-	-
3.2 グレア対策				トブライト、ライトウェルを有する	3.0	0.27	-	-
1 昼光制御				●自然 B(推奨内容)	3.0	1.00	-	-
3.3 照度				机上上面水平照度は500LXを基準としている	4.0	0.16	-	-
3.4 照明制御					3.0	0.28	-	-
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に利用	5.0	0.50	-	-
1 化学汚染物質					5.0	1.00	-	-
4.2 換気					3.0	0.30	-	-
1 換気量				●自然 A(全国版準用)	3.0	0.33	-	-
2 自然換気性能					3.0	0.33	-	-
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.33	-	-
4.3 運用管理				中央監視およびフィードバックが可能 敷地内を全面禁煙とする	5.0	0.20	-	-
1 CO ₂ の監視					5.0	0.50	-	-
2 喫煙の制御					5.0	0.50	-	-
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				努力義務を満たす	3.9	0.40	-	-
1 広さ・収納性					3.0	0.01	-	-
2 高度情報通信設備対応					3.0	0.01	-	-
3 バリアフリー計画				●大切 D(独自基準)	4.0	0.97	-	-
1.2 心理性・快適性				講義室1、5.5m	4.4	0.30	-	-
1 広さ感・景観(天井高)				●とも C(独自加算)	5.0	0.44	-	-
2 リフレッシュスペース				地域産木材を利用、その他照明を含むバース検討	3.0	0.01	-	-
3 内装計画					4.0	0.54	-	-
1.3 維持管理				内外装について、洗浄しやすさなどを考慮し選定 清掃・廃棄物保管について、十分な機能を有す	5.0	0.30	-	-
1 維持管理に配慮した設計					5.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保					5.0	0.50	-	-
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震・制震・制振				建築基準法に定められた50%増の耐震性 建物は免震構造であり、さらに設備保護を施す	4.2	0.30	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					5.0	0.50	-	-
2 免震・制震・制振性能					5.0	0.80	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数					5.0	0.20	-	-
1 躯体材料の耐用年数				●大切 A(全国版準用)	3.0	0.30	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.20	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.10	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.10	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.20	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20	-	-

2.4 信頼性					4.2	0.20			
1	空調・換気設備			熱源種(電気・ガス)、災害時想定	5.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			水の利用量の削減や災害時対策を行う	5.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			設計用水平震度KH2.0(上層階)	5.0	0.20			
5	通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.9	0.30			3.9
3.1 空間のゆとり					3.5	0.30			
1	階高のゆとり			4.58m	4.0	0.54			
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.46			
3.2 荷重のゆとり				4.9kN/m2	5.0	0.30			
3.3 設備の更新性					3.4	0.40			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	RC壁軽量壁内の配線は配管に納めており、更新が可能	5.0	0.10			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	RC壁軽量壁内の配線は配管に納めており、更新が可能	5.0	0.10			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30			4.8
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)	原生種の復元をおこなう	5.0	0.30			5.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	景観特例認定による	5.0	0.40			5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					4.5	0.30			4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)	劇場(音楽ホール)や展示場(ギャラリー)など地域へ施設機能を提供	5.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)	風向を妨げないことをシミュレーションにて確認	4.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			4.0
LR1 エネルギー					-	0.40			3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制				[BPI] _m = 0.68	5.0	0.20			5.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)	太陽光、地熱(井水)	5.0	0.10			5.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI] _m [BEI] _m = 0.80	3.0	0.50			3.0
4 効率的運用					4.5	0.20			4.5
集合住宅以外の評価					4.5	1.00			
4.1	モニタリング			消費エネルギー量をモニタリング可能	5.0	0.50			
4.2	運用管理体制			運用管理体制が組織化されている	4.0	0.50			
集合住宅の評価					-	-			
4.1	モニタリング				-	-			
4.2	運用管理体制				-	-			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			4.4
1 水資源保護					4.2	0.20			4.2
1.1 節水				各種節水性能のある器具を選定する	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					4.4	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)	熱源に井水を利用する	5.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減					4.8	0.60			4.8
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				既存建物を地中に残置とする	5.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	高炉セメントを基礎に利用	5.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	リサイクル材を積極的に利用する	5.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	使用する木材の50%以上を持続可能な森林から産出されたものとする	5.0	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	内装壁はLGS下地であり容易に解体可能	5.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.8	0.20			3.8
3.1 有害物質を含まない材料の使用				指定化学物質を含有しない建材を選定する	5.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.3	0.70			
1	消火剤			ODP=0かつGWP<1	2.0	0.33			
2	発泡剤(断熱材等)				5.0	0.33			
3	冷媒				3.0	0.33			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.6
1 地球温暖化への配慮				73.64kg-CO2/年m2	3.6	0.33			3.6
2 地域環境への配慮					4.1	0.33			4.1
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)	風向を妨げないことをシミュレーションにて確認	5.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.7	0.25			
1	雨水排水負荷低減			調整池を有する	4.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3	交通負荷抑制			公共交通機関の利用を促す	5.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	0.33			
2	振動				3.0	0.33			
3	悪臭				3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				3.0	-			
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					4.4	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			効率の良い光源を使用し、過大な光源は使用していない	5.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 京都市立芸術大学(C地区)

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 3つの敷地にまたがる大学・高校の移転計画であり、大学と地域、芸術と社会の新しい関係性を生み出すフレーム、「まちのように育まれる水平につながっていくキャンパス」を提案します。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 芸術系の大学・高校における多様な授業それぞれの特性に応じ、配慮すべき点を適宜判断し室内環境を最適化しています。例えば、音楽学部は音環境を充実させるため、各室の遮音性能を向上させています。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物は免震構造で高い耐震性能を有しています。また、マトリクスフロアとフレキシブルフロアからなる豊かな空間は日常のメンテナンスや将来的な変更に対応し得る許容力を有しています。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物は地上部に大きな通りを有する分棟上の形態からなります。「通り」・「庭」など京都において歴史的に培われてきた空間言語を用いることで、敷地内の緑化、歩行者空間の充実が図られています。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省エネルギー化を実現するため、井水や太陽光などの再生エネルギーを活用します。また、BEMを活用し、地区ごとにエネルギー運用の総合的なシステムを構築しています。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 可能な限りリサイクル材料を採用します。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物の形態がつくる通りの存在は、南北方向の卓越風を妨げないことがシミュレーションにより確認されています。また、敷地が駅から近いことなどを理由に公共の交通機関を利用するよう、ホームページやパンフレットなどでの告知により促進させる計画としています。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。